

令和7年度 公民館主催事業報告書

公運審提出日 令和8年3月18日

	実施館	事業名	期間・回数	参加者数	実施内容	主な講師等
1	柳沢	子どもを取り巻く環境について考える講座（保育付き） 大人は子どもと出会えるか ～子ども・若者にいろいろ聞いてみよう～	12月6日 12月20日 土曜日 10時から12時 全2回 ※保育説明会11月29日	延べ33人	講師が現在の学校現場や子どもを取り巻く環境について事前の知識を得た後に、当事者が現状をどのように感じているのか実際に声を聴いて理解を深めた。	松田洋介(大東文化大学文学部教育学科教授)
2	柳沢	みんなで踊ろう！ やぎさわディスコ	7月6日 10月5日 12月21日 令和8年2月15日 日曜日 14時から15時20分 全4回	延べ192人	やぎさわディスコ実行委員会との共催により、障がいのある人もない人も一緒に集える継続的な地域の居場所として、イスに座っても立ち上がっても踊れるディスコを開催した。 視聴覚室に音響装置とミラーボールを持ち込み会場を作り、生ドラムの演奏とともに参加者は自由に踊れるようにした。	

3	田無	夏企画 子どもと保護者体験講座 親子で自分だけのカレンダー を作ってみよう	7月4日から 10月3日 金曜日 16時30分から18時 全6回	延べ74人	絵を描く基本を学び、いくつもの手法 に触れることで、美術の世界観を味わ えた。 親子で絵を描いてカレンダー作成をす ることで、家庭においても今後の共通 の楽しみとするきっかけとした。 好きなことを趣味として持つことで心 の豊かさを養うきっかけとした。	江田章子（保谷クロッキー 会・グループAD代表）
4	田無	防災講座 災害時、その情報は大丈夫？ ～正しい情報をキャッチし、 行動しよう～	11月15日 土曜日 13時30分から15時30分 11月21日 金曜日 13時から15時30分 全2回	延べ43人	災害が起こったとき混乱する中でも命 を守る行動をとるために、被災情報の 確認方法など、正確な情報を得る手段 を学びとした。 いざという時に落ち着いて行動できる ような判断力を養うために、地震を想 定した防災訓練を実施した。 現役の消防隊員を講師にすることで、 地震発生時の火災に関する知識や避難 方法をより深く学べる内容とした。	岩永正雄：一般財団法人 防災教育推進協会 理事 東京消防庁西東京消防署田 無出張所員
5	芝久保	【共催事業】 ちいさな展示会と講習会 ※「陶心会」「草木染たんぼ ぽ」との共催	9月26日 金曜日 10時から12時 1月10日から2月14日 土曜日 14時から16時 全4回 その他展示有り	延べ33人	芝久保公民館で活動しているサークル メンバーが指導し、制作した作品の展 示を行った。 地域の人々への学びの循環と公民館で の活動を多くの市民に周知する機会と なった。	草木染たんぼぽ（市民サー クル） 陶心会（市民サークル）

6	芝久保	<p>防災講座 身近な防災について、体験を通じて学ぼう！ ～被災地支援をした学生の体験談を聞き被災するということ学ぶ～</p>	<p>1月18日 2月1日 日曜日 10時から12時 全2回</p>	延べ28人	<ul style="list-style-type: none"> 被災地支援の話や防災体験をすることで、一人ひとりが身近に防災について、考えていただく場となった。 被災地での共助の話や避難所の話を聞き、地域のつながりを考えていただく機会となった。 	小野 修平（ジョージ防災研究所）
7	谷戸	<p>農業を知る講座 ～収穫の喜びと仲間づくり～</p>	<p>7月22日から令和8年1月13日 火曜日 畑：8時から10時（7・8・9月） 畑：9時から11時（10月） 畑：10時から12時（11・12・2月） ※畑作業のみ記載 全22回</p>	延べ690人	<p>30年以上続いている農業を知る講座では、農作業と収穫体験、データに基づく農薬や肥料の基礎知識の習得を通して、農業と野菜作りの大変さを実感するとともに、都市農業の問題や西東京市の農業の実像を学ぶことができた。各講義ごとにアンケートを実施し、参加者のニーズを分析した。また受講者による作業日誌、講師との資料を含めた「記録誌」を作成し、参加者同士で共有した。</p>	<p>保谷隆司（市内農業経営者） 小野紀之（環境カウンセラー） 西東京市産業振興課職員</p>
8	ひばりが丘	<p>子育て中の女性のための講座（保育付き） 来春までに私と子どもと暮らしを整える ～家族の未来予想図を描く～</p>	<p>5月30日から9月19日 金曜日 （6月14日のみ土曜日） 10時から12時 全12回 ※保育説明会5月23日</p>	延べ163人	<p>産後の不調や育児疲れ、家族関係の変化や教育費などの気がかりや不安を解消するために、助産師や育児・発達相談、家計相談、心のケアなどの専門家の実践から学び、子どものいる暮らしを整え、未来を描くヒントを学び、育児明けの生活を展望した</p>	<p>清水陽子（アドラー式アートセラピスト） なかじまともみ（CFP(r)、保育士）、 石森正恵（助産師） 西山さつき（NPO法人レジリエンス代表）</p>

9	ひばりが丘	防災講座1 防災語り場ひだまり	10月19日 11月16日 日曜日 10時から12時 全2回	延べ15人	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼうさいNURIEをもとに、避難リュックに何を入れるか語り合った。 ・みんなと話してみたいことを挙げた。 ・大川小学校の事例から学んだ。 ・ひばりが丘地域の危険個所をチェックした。 ・防災関係でこれからやってみたいことを一人ずつ発表した。 	村上和隆（防災士、NPO法人日本ファッション協会会員、ホワイトボードミーティング®認定講師、西東京レスキューバード会員）
10	ひばりが丘	趣味講座 「麻ひも×手織り」の魅力 ～輪織りを楽しもう～	10月30日から 令和8年1月15日 木曜日 13時30分から15時30分 全5回	延べ53人	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボール織り機作りの基本を学ぶことで、作品サイズに合わせた織り機を作ることができるようになり、今後の作品制作に活用できる学びの機会となった。 ・両面続けて織る「輪織り」の技法を学び、創作活動を通じて手仕事の楽しみを味わい、参加者同士で教えあったり、お互いの完成作品を鑑賞しながら語り合うなど交流の機会が生まれた。 ・ひばりが丘フェスティバル「展示の部」に作品展示することで、地域住民との会話や交流のきっかけとなり、地域で一緒に学び合う仲間づくりをサポートする一助となった。 	歌川智子（染織クリエイター、日本輪織り協会代表）
11	ひばりが丘	【共催事業】防災講座2 八方ふさがり冷や汗避難体験 ※中原小学校避難所運営協議会との共催	令和8年1月25日 日曜日 10時から12時	延べ35人	実際の避難所を使ったリアルな避難体験を開催し、近隣の戸建てやアパートに暮らす市民に避難所の周知と避難所疑似体験を提供した。	岡橋かおり・野呂順正（一般社団法人 地域防災支援協会・地域防災アドバイザー） 朗読劇の会りふれ（市民サークル・ひばりが丘フェスティバル参加団体）

12	保谷駅前	<p>多文化共生講座 I 「ワークショップ、映画を通して難民・避難民問題を考える」 II 「私たちが身近に始められること ―やさしい日本語を学ぼう」</p>	<p>I 10月4日・11日 II 11月15日・22日 12月13日 土曜日 14時から16時 全5回</p>	延べ59人	<p>I ワークショップ(「いのちの持ち物検査」)、ロシアのウクライナ侵攻から避難する人々を描いたドキュメンタリー映画「永遠の故郷ウクライナを逃れて」の鑑賞、避難民当事者の話しを通して難民、避難民問題への理解を深めるとともに平和の尊さを学んだ。 II 多文化共生社会形成のために自分が身近に実践できることとして「やさしい日本語」の意義・基礎をまなび、西東京市の多文化共生施策や在住外国人の困りごとを知り、地域で多文化共生を進めていくために自分が取り組む方法について学んだ。</p>	<p>I 天沼 耕平(国連UNHCR協会職員) ウクライナ避難民当事者 別當 紀人 II 庵 功雄氏(一橋大学国際教育センター教授) 文化振興課多文化共生担当者、NPO法人西東京市多文化共生センター相談員</p>
13	保谷駅前	<p>環境講座 温暖化から地域のオアシスを守ろう～地球にやさしい生活～</p>	<p>11月22日から 12月13日 土曜日 10時から12時 全4回</p>	延べ59人	<p>・市民ボランティアによる保全活動をフィールドワークなどを通して知り、地域社会と自然が共生する理想的なあり方を考え合う機会となった。 ・温暖化が自然生態系に及ぼしている影響と自然界の生物多様性を健全に保つことの重要性を知り、環境保護、温暖化対策を学ぶ機会とした。 ・温暖化対策としてエシカル消費が一つの手法であり、商品に様々な認証ラベルがついているのを知り、今日から各自取り組むことを発表し合った。</p>	<p>高橋家屋敷林保存会の皆さん 上田実希(日本女子大学理学部化学生命科学科准教授) 田中雅文(武蔵野の森を育てる会代表、日本女子大学名誉教授) 山口真奈美(日本サステナブル・ラベル協会代表、日本エシカル推進協議会副会長)</p>